

近未来の理想的電化生活を現物展示 — 三菱電機「電気の家」ご案内

■家庭電化のモデルルーム「電気の家」

戦前昭和期は、戦時経済体制までの間は、都市電化、家庭電化が進み、モダン都市名古屋への歩みが続いた。昭和9年秋、三菱電機名古屋製作所内に「電気の家」が設けられた。電気を利用した近未来の理想的家庭生活を現物展示する施設であり、パンフレット「電気の家御案内」では次のように電気生活の夢が語られている。

「近代人の家庭生活、主として食と住との方面にどの程度迄の電気を採り入れたら其生活が最も便利に且つ幸福になるかを如実に見るために我社に於て一軒の家を建て、之を電気の家と名づけました。此の家は我国の理想的家庭生活が数年間若くは十数年間の将来に赴く可き方向を指示するものとして興味を持つものであります。」



三菱電機が建てた「電気の家」の外観 出典：絵葉書（筆者蔵）

■電化製品で埋め尽くされた住まい

電気の家は、東区矢田町の三菱電機製作所の構内に設けられ、電化製品40個 動力器具30個など、電気設備は合わせて75キロワットに達し、工費は4万円にのびた。



「電気の家」のダイニングルーム（上）とキッチン（下） 出典：絵葉書（杉山清一郎氏所蔵）



「電気の家」のリビングルーム 出典：絵葉書（杉山清一郎氏所蔵）

建物の照明は88個の照明器具が使われ、暖房はすべて電気暖房とし、三菱角型反射ストーブ等が採用された。各室に天井扇が設備され、応接室にはエアーコンディショナーを備え、台所を覗くと電気冷蔵庫や、臭気を外に逃す排気扇が備付けられた。料理用の設備には電気七輪、電気炊飯器、トースター、ミキサー、電気茶瓶、電気釜などのほか、食器の後片付け用に皿洗機、洗面室、台所には電気温水器があっていつでも温水がでる。足の踏み加減一つで思いのままの速度で静かに回る電気ミシンをはじめ、アイロン、電気火鉢、電気按摩器、電気時計、電気蓄音機（フォノラヂオ）、ドライヤー、電気剃刀、遠心力を利用した洗濯機や、さらに塵埃をたてずに掃除できる真空掃除機もあり、現在の電気製品がほぼそろっている。

「まことに至れり尽せりの装置で、「電気の家」を辞する時は、生を一度此世に得た私共も一度はこんな家に住んで見たい」と、社内報『菱華』（133号 1935年3月）の編集子は記している。

（浅野伸一）